

岡崎市



【A. 取り組みの全体像】

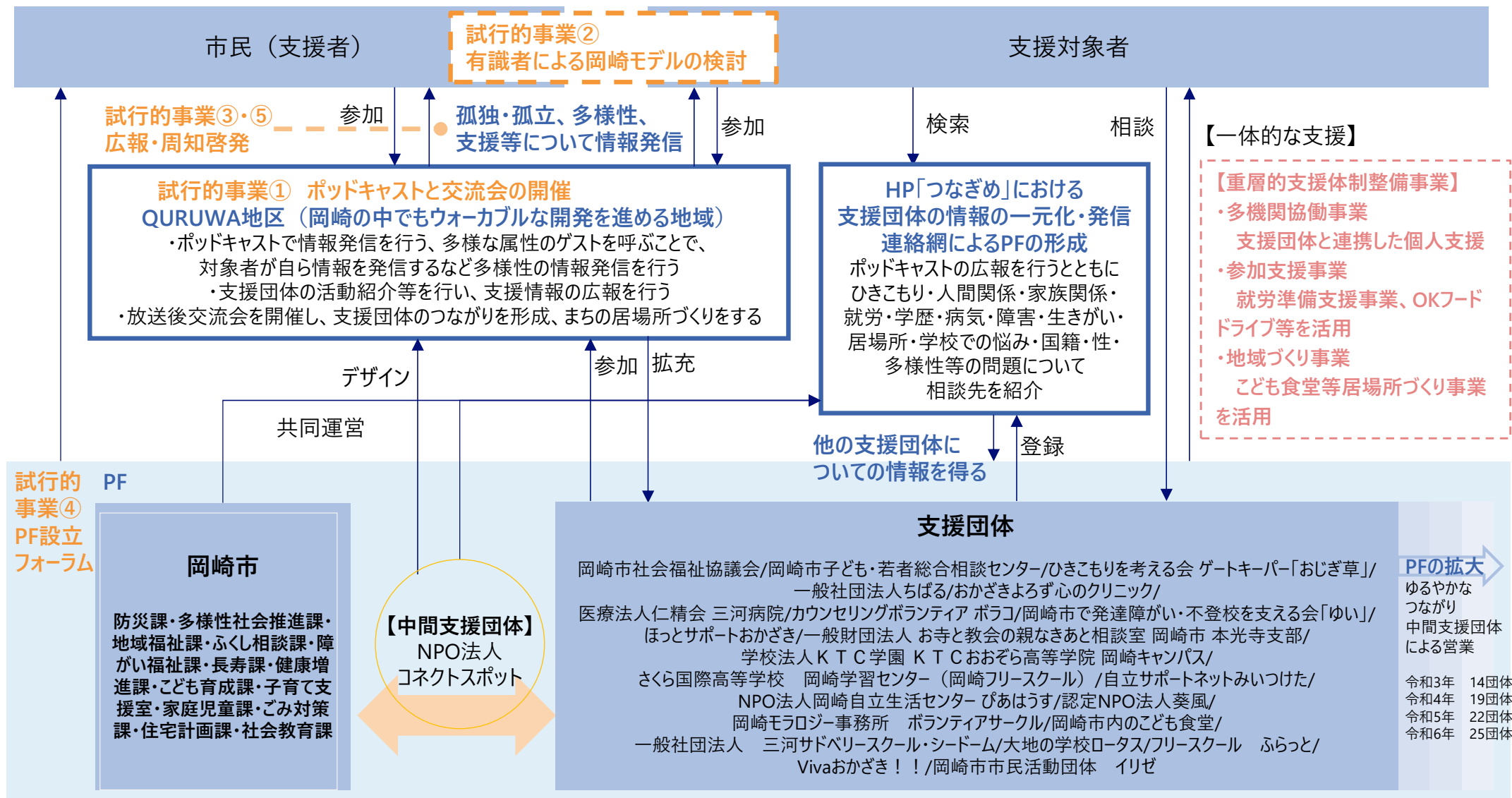
1.自治体の概要						
	自治体名		岡崎市	担当部局名	福祉部ふくし相談課	人口 384,654（人） ＜令和2年10月/国勢調査＞
	自治体内連携	庁内連携部局（メイン）	福祉部ふくし相談課		庁内連携部局（メンバー）	岡崎市福祉部障がい福祉課 岡崎市保健所 健康増進課 岡崎市子ども・若者総合相談センター（わかサポ） 岡崎市社会福祉協議会
		連携内容	重層的支援体制整備事業に基づく支援会議、重層的支援会議		連携内容	多機関協働事業を担うふくし相談課に個別事例に関する相談が来るため、日常的な対話がある
2.形成をめざす地方版連携PFの姿						
従前の取り組み ※重層の取り組み、外部組織連携、地域コミュニティ形成等	- 令和3年度から重層的支援体制整備事業を開始 - 令和4年度から地域づくりの一環として、地域、地域包括、民生委員・児童委員および支援関係者と個別避難計画作成支援を実施 - 令和5年2月から生きづらさに寄りそうポータルサイト「つなぎめ」をNPO法人コネクトスポットと共同運営を開始、情報発信を実施 - 令和6年1月から住まい連携推進員を配置した住まい支援センターを設置し、居住支援協議会と連携して入居支援と日常生活支援等が一体となった居住支援を実施。 - まちづくりでは、平成26年のまちづくり構想の提言を起源とするQURUWAプロジェクトでウォーカブルなまちづくりを推進している		実現したい状態 ※構築する仕組み／支援対象の住民を取り巻く環境	今年度のゴール	- ポッドキャストの運営を通して、PF参画団体が定期的に協働したり、地域市民の方との接点を持てる場をつくる。支援者間の交流の場「あわいスタンド」を開催し、今後の持続可能性を検証する。 - ポッドキャストの運営を通じて、孤独・孤立の課題を市民に周知するとともに、多様な市民が認め合うまちづくりを推進する。	
				最終的なゴール	- PF参画団体が、詳細な活動内容は違うが、同じ孤独・孤立を課題解決する、仲間であるという認識をもち、連帯感をもって支援に臨める体制を整備する。 - 関わったことのない分野や団体を巻き込むことで、把握できていない潜在的な孤独・孤立に陥っている層を掘り起こす。	
3.地方版連携PFの外部連携体制				4.PF連携による価値や工夫_考え方		
地方版連携PF 立ち上げ年度 令和6度	参画メンバー	岡崎市社会福祉協議会、「つなぎめ」に登録する支援団体（一般社団法人、医療法人、ボランティア、一般財団法人、学校法人、NPO法人、こども食堂、市民活動団体など）		 - 孤独・孤立の課題は、市民に<u>岡崎市には多様な人がいることを知ってもらうことが重要</u>という考えのもと、<u>ポッドキャストにおける多様な市民による情報発信</u>を行うことで、孤独・孤立対策を進め、潜在的な孤独・孤立層の掘り起こしを試みる。 - 情報発信をウォーカブルな街づくりの推進地区で<u>公開収録型で行う</u>ことで、関心を持った市民や支援団体、通りがかりの市民が集う場所をつくり、<u>支援団体同士の定期的な接点づくり</u>や、<u>市民の居場所づくり</u>を併せて行う。また、補助事業終了後も継続的にポッドキャストの運営を行うために<u>支援者間の交流の場「あわいスタンド」を開催し、今後の持続可能性を検証する</u>。そうすることで、将来的には民間による運営を目指す。 - ポッドキャストについてはチラシや運営するNPOのHPを通じて広報を行う。ポッドキャストを通じてつながった支援団体を含めて、支援団体同士が互いを知り、つながるために、<u>HPでは支援団体の情報の情報発信</u>も合わせて行う。		
	選出・打診時の工夫	民間主体で「つなぎめ」に登録している支援団体 ※参画団体は随時募集しており、試行的事業を通じてつながった団体を追加していく。				
地域協議会 立ち上げ年度 未（代替あり）	参画メンバー	－（重層的支援体制整備事業における重層的支援会議が協議会の役割を担う。そのため孤独・孤立対策は予防的な観点、潜在層の掘り起こしを担い、支援が必要な対象者をPFメンバーで支援するとともに、必要に応じて、重層的支援会議につなぐ機能を担う。）				
	選出・打診時の工夫	－				

89

Copyright (C) Nomura Research Institute, Ltd. All rights reserved. 

【B.連携PFイメージ】

5. 連携PFのイメージ図



【C.試行的事業】_一覧

6. 本年度にり組む試行的事業の概要

試行的事業の ポイント・工夫

- ポッドキャストによって、広報と居場所づくり、支援団体同士の交流を一体的に進める。
- 有識者の視点も織り交ぜつつ、市民の生活史から実態把握に取り組む。

事業名称	事業内容	目的／期待効果・KPI	実施時期	発注先（予算）
1 ポッドキャストと交流会	ポッドキャスト「こどくのあわい」で岡崎市の市民に焦点をあて、市民の生活史を発信することで、視聴した市民が共感したり、その人から見た社会について考える機会を与えることで、地域全体で孤独・孤立対策を推進した。ポッドキャストは公開収録とし、さらに、放送後収録場所において交流会を開催することで、街中の交流拠点づくりも合わせて行った。ポッドキャストや交流会についての情報発信と支援団体やその活動状況についての情報発信を合わせてHP等で実施した。	- 市民に対して孤独・孤立対策や市民の多様性について発信すること、誰でも立ち寄れる市民の居場所を作ること。これらにより、潜在的な孤独・孤立を抱える方の掘り起こし、予防的な対策を行う。 - 支援団体同士が定期的に接点を持てる場所をつくり、支援団体のつながり、情報発信の支援を行うこと。	✓ 9月下旬～2月	コネクトスポット（290万円）
2 ポッドキャストの広報活動	ポッドキャストの実施にあたっての広報を行った。具体的にはチラシ、ステッカーを1,000部印刷し、岡崎市役所や関係機関、NPO法人などのPF参画団体の施設において配布した。	ポッドキャストの周知啓発を行い、視聴者数、公開収録、交流会への参加者数を増やすこと。	✓ 9月	シテン（110万円）
3 岡崎モデルの検討	有識者への委託を行い、先進地や地域内のフィールドワークを行った。結果を踏まえて、岡崎らしさや岡崎ならではの今後の取り組みについて検討整理し、岡崎らしい孤独・孤立対策としてPFやポッドキャストの運営の見直しを行う材料として整備した。成果物を使用して、PF設立フォーラムにおいて朗読を実施すること、来場者の孤独・孤立に対する理解を深めた。	有識者の視点から検討してもらうことで、孤独・孤立やまちづくりにおける岡崎らしさについて把握し、現在の取組身の見直しや、次年度以降の取組の検討に活用すること。	✓ 9月下旬～2月	あさの研究所（66万円）

【C.試行的事業】_一覧

6. 本年度にり組む試行的事業の概要

試行的事業の ポイント・工夫

- ポッドキャストによって、広報と居場所づくり、支援団体同士の交流を一体的に進める。
- 有識者の視点も織り交ぜつつ、市民の生活史から実態把握に取り組む。

事業名称	事業内容	目的／期待効果・KPI	実施時期	発注先（予算）
4 PF設立 フォーラム	市内施設において、PF設立フォーラムを開催した。支援者、NPO、民生委員等の支援団体を対象に開催し、有識者による講演で孤独・孤立の課題についての理解を広めるとともに、PFのあり方や考え方について支援団体への周知を行った。また、グループワークを実施し、孤独・孤立とは何かや、孤独・孤立対策について支援者同士で話し合う機会を設けた。	- 支援団体の孤独・孤立の課題やPFについての理解を深め、共通認識を持てるようにすること。 - 支援団体同士が一体感をもって支援に臨めるようにPFの連帯感を醸成すること。	✓ 2月21日（金）	舞台講演、謝金＋交通費（24万円）
5 孤独・孤立の ロゴ制作	ポッドキャストとその広報活動によりイメージの周知がなされたことを踏まえ、共通のイメージで行政の孤独・孤立対策を推進するため、統一感のあるデザインで孤独・孤立対策のロゴを制作した。	孤独・孤立対策に一体的に取り組んでいるイメージを与えること。	✓ 2月	コネクトスポット（4万円）

7. 次年度以降に向けた事業等の案

※PDCAサイクルに照らして次年度以降に取り組んでいく事業イメージ（あれば）を例挙

- つながっている支援団体数は地域内では網羅的になってきたが、今後も少しずつ拡大予定
- 今後は今つながっている支援団体とのつながりを強化することが課題。緩やかだが、弱くて忘れられるようなつながりではいけないため、「つながり」を情報を伝えるツールとして活用するとともに、行政が中間支援団体とともに支援団体を訪問するなど積極的に動いていく。

8. 孤独・孤立対策を公表した際の反響

- ポッドキャストについては、岡崎市民だけでなく、市外の人からもポッドキャストを聞いて、「共感した」といった反響があった。
- チラシ、ステッカーを特徴的なデザインとすることで、市役所に配置したものを見た市民から「見たことがある」とコメントをもらうなど、印象付けることができた。

【C.試行的事業一覧】_1.ポッドキャストと交流会

概要

ポッドキャスト「こどくのあわい」では、毎回市民や支援者をゲストに呼び、その人の今までの人生やその時の思いについてラジオ形式で発信する。誰かの生活史を発信することで、視聴者が共感し、勇気をもらったり、社会について考えたりする機会を提供することで、地域全体での孤独・孤立を予防していくことを目指す。

工夫点

音声のみのラジオとすることで、負担感を軽減し、継続性を高めた。また、ゲストが匿名で登場することもできる設計とした。
公開収録の形式をとり、収録後に交流会を開催することで、街中の交流拠点づくりを行った。

ねらい

孤独・孤立対策や多様性、誰かの生活史を発信することで、孤独・孤立対策の認知拡大だけでなく、潜在的な孤独・孤立を抱える人やその隣の人に勇気を与えたり、支えになったり、少し考えてもらうきっかけにもらえるように設計した。

結果

11回の公開収録を行い、のべ114名が参加した。公開収録には関係者以外にも学生や一般市民などの来場があった。また、収録後の交流会は支援者同士が交流する機会にもなった。
岡崎市民だけでなく、市外の人からもポッドキャストを聞いて、「共感した」といった反響があった。

開催記録

回数	日付	ゲスト
#0	9月26日	岡崎の孤独の調査に取り組む愛知学泉大学古橋敬一氏
#1	10月10日	人生で3ヶ月以上、岡崎を離れたことのない方
#2	10月31日	長年続く洋菓子屋岡崎の洋菓子屋さんに嫁いだ方
#3	11月14日	岡崎で長年続く石屋で石造りに取り組む四代目の職人さん
#4	11月21日	岡崎の山間部、額田で酒蔵を営んでいる方
#5	12月12日	岡崎で家族でぶどう園を営んでいる方
#6	12月19日	岡崎で20年以上、建築現場に関わってきた大工さん
#7	1月9日	岡崎で10年間、ママさんの産前産後の暮らしをサポートしてきた方
#8	1月23日	岡崎で16年、ベーコンやハムなどの手作り店を営んできた方
#9	2月13日	10年以上勤めた会社から独立・起業し、山間部の課題解決に取り組む方
#10	2月27日	岡崎でフランス流の食堂を営む方

公開収録の様子



【C.試行的事業一覧】_2.ポッドキャストの広報活動

概要

- ポッドキャストの実施にあたり、広報活動としてチラシとステッカーを1,000部印刷し、岡崎市役所や関係機関、NPO法人などのPF参画団体の施設で配布した。

工夫点

- 絵葉書のような特徴的なデザインで、説明は裏面に記載することで、福祉関係の施設以外にも置いてもらいやすく、思わず手に取りたくなるようなカード型のチラシと、共通のデザインのステッカーを制作した。

ねらい

- ポッドキャストの周知啓発を行い、視聴者数、公開収録、交流会への参加者数を増やすこと。
- 岡崎市の孤独・孤立対策を広く周知していくこと

結果

- ポストカード型のチラシ、ステッカーとし、特徴的なデザインとすることで、市役所に配置したのを見た市民から「見たことがある」とコメントをもらうなど、印象付けることができた。

チラシ・ステッカーの表面のデザイン



- ◀チラシ（表）
- ・チラシはポストカードサイズ
- ・表面にはタイトルとイラストのみのデザイン
- ・ポッドキャストの画面でも同一のデザインが表示される



- ◀ステッカー
- ・チラシと共通のデザイン

チラシの裏面の説明書き

こどくのあわい

岡崎という街の生活史

このPodcastでは、岡崎という街で暮らす様々な人たちの物語を通じて、私たちが抱える孤独感にそっと寄り添っていきます。

この街には、いろいろな背景を持つ人が暮らしています。

年齢、性別、職業、心身の状態が違うそれぞれの人々が、岡崎という場所でどのように生きてきたのか。

その生活の中には、嬉しかったこと、悲しかったこと、どうしようもない孤独を感じた瞬間があるでしょう。

私たちは、その人たちの話に耳を傾けることで、この街が持つ多様な姿に気づくことができるかもしれません。

そして、それが少しでも、あなたが感じている孤独を和らげるきっかけになればと思っています。

共催 岡崎市・NPO法人コネクトスポット / 企画 合同会社シテン

話を聞く人

NPO 法人
コネクトスポット代表
山下祐司

合同会社シテン代表
飯田圭

話をする人

岡崎に暮らすあの人

収録地

Micro Hotel ANGLE

Podcastを聴く



つながめを知る



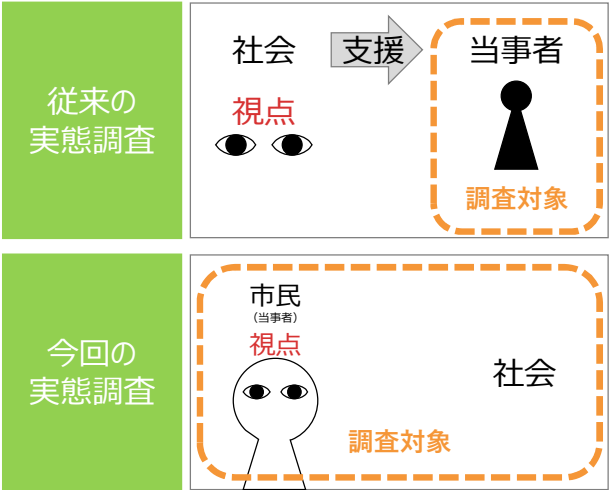
▲チラシ（裏）

- ・ポッドキャストの説明として「孤独感にそっと寄り添う」メッセージを記載
- ・ポッドキャストのアクセス用のQRコード、収録地の場所を掲載

【C.試行的事業一覧】_3.岡崎モデルの検討

概要	愛知学泉大学の古橋敬一氏と連携し、フィールドワークによる実態調査を行った。インタビューを軸にした質的調査を行うことで、現代的な「孤独・孤立」の実態を把握し、対象者の視点から見た岡崎市を把握した。	ねらい	対象者へのヒアリングを実施し、有識者の視点から整理してもらうことで、現代の孤独・孤立の実態やまちづくりにおける岡崎らしさを把握し、現在の取組みの見直しや、次年度以降の取組の検討に活用する。
工夫点	- アンケート調査による定量的なデータでは見えてこない、個人を取り巻く社会の様子を知ることができる手法を採用したこと。 - 手法の検討段階から有識者と相談し、連携して調査を実施した。	結果	- 調査結果をPF設立フォーラムにて報告するとともに、PFに対して一人一人が社会を変えていく必要性について問題を提起した。 - 今後も調査を拡大しつつ、結果を伝えていくことが必要と示された。

工夫点		開催記録	
- アンケート調査等の従来の実態調査では、社会の視点から支援対象である孤独・孤立の当事者の定量的な情報を把握する。 - 一方で、今回の調査では、誰でも孤独になるタイミングがあるという前提のもと、いち市民の目線からその状況や思い、まわりの社会を把握することで、現代の孤独・孤立について把握することを試みた。		有識者の視点から岡崎市の孤独・孤立対策を調査いただき、福祉の概念を変化させ市民が主体となって地域づくりを進める“ふくし”のあるべき姿や、市民の挑戦を行政がサポートする岡崎市の取り組み方についての考察、調査によって把握した当事者目線からの制度の姿、「望まぬ孤独」や「集団の中での孤独」など現代社会特有の「孤独・孤立」に遭遇している人もいれば、従来型の「孤独・孤立」から抜け出させずに複合的困窮に苛まれている人もいる、混在化した現代の孤独・孤立の特徴について考察いただいた。	
実施内容	結果		
①県外の先進事例視察	静岡県浜松市にあるNPO法人クリエイティブサポートレッツを訪問し、岡崎市の今後の取り組みを検討するための問いとして、「孤独・孤立を考えることは、社会の側の問題を考える契機になるのではないか？」という問題を提起し、「社会とは、行政ではなく、私たち一人ひとりのことである。支援ありきではなく、支援する側の自己変革の機会としてもとらえて、私たち一人ひとりが変わっていくようなアプローチが重要ではないか」との示唆を出した。		
②市内の視察調査	13名の市民へのインタビュー調査を実施し、要約したドキュメントを制作した。調査結果を踏まえて、市民目線での孤独・孤立とは何か、社会はどのように見えるのかを共有することができる。		



【C.試行的事業一覧】_4. PF設立フォーラム

概要	市内施設において、PF設立フォーラムを開催し、支援者やNPO、民生委員等の支援団体を対象に、有識者の講演を通じて孤独・孤立の課題についての理解を広め、PFのあり方や考え方を周知した。	ねらい	支援団体が孤独・孤立の課題やPFについての理解を深め、共通認識を持つこと。また、支援団体同士が一体感を持って支援に取り組めるように、PFの連帯感を醸成すること。
	- 舞台俳優による孤独・孤立の芝居と朗読をいれることで参加者が孤独・孤立とは何かを考えるきっかけを作った。 - 講演を踏まえて支援者同士でグループワークを行うことで支援者同士が話す機会を作った。		グループワークの中では、包括支援センターと民生委員がもっと連携できると良いなどの支援者連携についての意見が支援者から発言されるなど、支援者による主体的な意見交換が行われた。
工夫点		結果	

～～概要

内容			工夫点
オープニングアクト	舞台俳優	三村 聡 氏	✓ 芝居によるオープニングで孤独・孤立とは何かを考えるきっかけを提供
オープニングトーク	NPO法人 コネクトスポット 理事長	山下 祐司 氏	✓ 中間支援団体より趣旨を説明
実践発表 1	一般社団法人 Mi-Project 代表	松村 大地 氏	✓ 居場所づくりの実践者による講演で具体的なケースや、事例を知り、知識や考えをストレッチする
実践発表 2	キッチンカー 「蟬（せみ）」代表	安藤 梢 氏	
PF交流会説明	合同会社シテン 代表社員	飯田 圭 氏	
PF交流会①	一般社団法人 Mi-Project 代表	松村 大地 氏	✓ 講話を踏まえて、支援者同士で車座になってディスカッションし、支援者同士が交流するとともに孤独・孤立の理解を深め、対策について考える。
	厚生労働省社会・援護局地域福祉課 地域共生社会推進室支援推進官	犬丸 智則 氏	
	NPO法人 コネクトスポット 理事長	山下 祐司 氏	
	合同会社シテン 代表社員	飯田 圭 氏	
	岡崎市	永田 享之 氏	
休憩・移動	-	-	✓ -
実践発表 3	厚生労働省社会・援護局地域福祉課 地域共生社会推進室支援推進官	犬丸 智則 氏	✓ さらなる実践者による講演で、知識や考えをストレッチする
PF交流会②	※交流会①と同一		✓ 交流会①と同様に、グループを変えてさらに話し合う
エンディングアクト	舞台俳優	三村 聡 氏	✓ 岡崎市の孤独の実態調査の結果より朗読を実施

開催風景



【C.試行的事業一覧】_5.孤独・孤立のロゴ制作

概要

- ポッドキャストとその広報活動によりイメージの周知がなされたことを踏まえ、共通のイメージで行政の孤独・孤立対策を推進するため、統一感のあるデザインで孤独・孤立対策のロゴを制作した。

工夫点

- ロゴ制作において、共通のイメージで行政の孤独・孤立対策を推進するため、統一感のあるデザインとした。
- 岡崎市の孤独・孤立対策を発信するアイコンとして使用することとした。

ねらい

- 孤独・孤立対策に一体的に取り組んでいるイメージを与えること。

結果

- ロゴを制作し、ポッドキャストと共通のデザインで制作することで既に広まったイメージを活用した。PF設立を伝える際に、のHPに掲載した。
- 市職員からは、「岡崎市のイメージと「こどく・こりつ」をかなで表記したデザインは、PF参加団体も使用しやすく市民が受け入れやすいものとなっている。」といった感想が得られた。

制作したアイコン



使用している風景

- つなぎめのサイトで岡崎市の孤独・孤立対策官民連携PFの設立を発信、アイコンを掲載し、イメージを普及
- サイト上では、参画団体の一覧も閲覧可能
- ポッドキャストの情報発信、報告も合わせて実施することで情報を一元化

参画団体一覧

No.	団体名	No.	団体名
1	NPO法人コネクトスポット	12	岡崎市市民活動団体 イリゼ
2	NPO法人自立サポートネットみいつた	13	岡崎モラロジー事務所 ボランティアサークル
3	NPO法人岡崎自立生活センターびあはうす	14	岡崎市で発達障がい・不登校を支える会「ゆい」
4	認定NPO法人葵風	15	岡崎市社会福祉協議会ボランティアセンター
5	一般社団法人 相談ちばる	16	一般社団法人 三河サドベリースクール・シールドーム
6	一般社団法人 Vivacity	17	大地の学校ロータス
7	一般財団法人 お寺と教会の親なきあと相談室 岡崎市 本光寺	18	フリースクール ふらっと
8	おかざきよろず心のクリニック	19	岡崎市子ども・若者総合相談センター（わかさぼ）
9	医療法人仁精会 三河病院	20	岡崎福祉部障がい福祉課
10	カウンセリングボランティア ボラコ	21	社会福祉法人 愛恵協会
11	ひきこもりを考える会 ゲートキーパー「おじぎ草」	22	岡崎市

ポッドキャストの紹介



【D.PF構築プロセスにおける留意点】



【E.ブレイクスルー要因】 自治体だけで進めず、民間の得意に頼る

令和6年4月

令和6年9月～令和7年2月

令和7年3月

取り組み課題

- 自治体だけではうまく推進できないことがある
 - ✓ 自治体HPでの相談窓口の周知がうまくいかない
 - ✓ 実態調査、PFにおける活動の検討に迷う
 - ✓ 広報デザインが得意ではない

その後の変化

- やりたいことの重なりを重視することで、お互いの得意を活用する形での連携、事業をうまく推進することができた
 - ✓ 相談窓口が探しやすくなる
 - ✓ 岡崎市のオリジナリティのある活動が生まれた
 - ✓ 共通のイメージを印象付けることができた

アクション／ブレイクスルー要因

- 魅力的な活動をしている、意欲的な団体を見つけて、お互いのやりたいことの重なりを見つけて一緒に活動を推進する
 - ✓ 「つなぎめ」のサイトを運営している団体とHPを共同運営とする
 - ✓ 有識者と連携し市民の生活史をヒアリングするフィールドワーク型の実態調査を実施
 - ✓ PFの活動として、中間支援団体と議論し、ポッドキャストによる市民の生活史の発信の取組を実施することとした
 - ✓ デザインが得意な団体にデザインを依頼